

数学科（数学C）学習指導案

日時	令和6年6月6日（木）第2時限	学年・組	3年 5組	指導者	木下 翔太
教室	131 教室	使用教科書	新編 数学C（数研出版）		
単元	平面上のベクトル	内容のまとめ	ベクトル		
単元の目標	<p>1 ベクトルについて理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に表現・処理する技能を身に付ける。</p> <p>2 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。</p> <p>3 数学のよさを認識し、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。</p>	指導計画	<p>1 ベクトル…………… 1時間</p> <p>2 ベクトルの演算…………… 2時間</p> <p>3 ベクトルの成分…………… 3時間</p> <p>4 ベクトルの内積…………… 3時間</p> <p>5 位置ベクトル…………… 2時間</p> <p>6 ベクトルの図形への応用…………… 3時間</p> <p>7 図形のベクトルによる表示…………… 3時間</p> <p>（本時はその2時間目）</p>		
単元の評価規準	知識・技能	ベクトルの相等および和、差、実数倍などの演算を理解し、位置ベクトルを用いて線分の内分点や外分点などの図形を表現することができる。			
	思考・判断・表現	ベクトルの演算や内積、位置ベクトル等を活用して、図形の形状や性質を考察することができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。			

本時の指導

主題(教材)	$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ を満たす点Pの存在範囲
前時の課題	復習プリントを解いておく。
本時の目標	$s$ や $t$ 、 $s+t$ の値の違いによって、 $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ を満たす点Pの存在範囲がどう違ってくるか考察する。
評価規準	$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ を満たす点Pの存在範囲を図で表現することができる。(思考・判断・表現)

	学習活動	時間	指導上の留意事項	評価方法、資料等
指導過程	導入 前時の復習をする。	5 (分)	・ $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ について $s+t=1, s \geq 0, t \geq 0$ のとき、点Pが線分AB上にあることを確認させる。	ワークシート
	展開 1 応用例題6に取り組む。 (1) GRAPES を用いて点Pの存在範囲を確認し、予想する。 (2) 点Pの存在範囲を $s'+t'=1, s' \geq 0, t' \geq 0$ の条件に当てはめて理解する。 2 練習37を解く。	15	・ $2\vec{OA}, 2\vec{OB}$ を図示させ、その先端を結ぶ線分が点Pの存在範囲であることに気付かせる。	タブレット プロジェクタ ワークシート
		10		【評価方法】 ○プリントやロイロノートの提出物の記述の分析
	整理 練習37の解答と次時の確認をする。	8	・ $s+t$ が不等式で表される場合の点Pの存在範囲を考察することを理解させる。	

備考	文B I コース 生徒数 33名
----	------------------

